

京大WV 5.37.入部「水行末 雲行末 風來末」の仲間たち

私の古いアルバムに残っていた写真より by Mutsuo Nakanishi 京大 WV 5.37 年入部 同期懇親会・神户 2014.11.16.





「紅萌ゆる丘の花(三高逍遥の歌)」

紅(くれない)萌(も)ゆる丘の花 早緑(さみどり)匂う岸の色 都の花に嘯(うそぶ)けば 月こそかかれ吉田山(よしだやま)

緑の夏の芝露(しばつゆ)に 残れる星を仰ぐ時 希望は高く溢(あふ)れつつ 我等が胸に湧返(わきかえ)る

千載(せんざい)秋の水清く <u>銀漢(ぎんかん)</u>空にさゆる時 通える夢は<u>崑崙(こんろん)</u>の 高嶺(たかね)の此方(こなた)ゴビの原

ラインの城やアルベンの 谷間の氷雨(ひさめ)なだれ雪 夕べは辿る<u>北溟(ほくめい)</u>の 日の影暗き冬の波

鳴呼(ああ)故里よ野よ花よここにも萌ゆる六百の 光も胸も春の戸に 嘯き見ずや古都(こと)の月 それ京洛(けいらく)の岸に散る 三年(みとせ)の秋の初紅葉 それ京洛の山に咲く 三年の春の花嵐

左手(ゆんで)の書(ふみ)(こうなずきつ 夕(ゆうべ)の風に吟(ぎん)ずれば 砕(くだ)けて飛べる白雲(はくうん)の 空には高し如意ケ嶽(にょいがたけ)

神楽ケ岡(かぐらがおか)の初時雨 老樹の梢(こずえ)伝う時 檠燈(けいとう)かかげロ誦(くちずさ)む 先哲至理(せんてつしり)の教(おしえ)にも

鳴呼又遠き二千年 血潮の史(ふみ)や西の子の 栄枯の跡を思うにも 胸こそ躍(おど)れ若き身に

希望は照れり東海の み富士の裾の山桜 歴史を誇る二千載(にせんざい) 神武(じんむ)の子等(こら)が立てる今



見よ洛陽(らくよう)の花霞(はながすみ) 桜の下(もと)の男の子等が 今逍遥(しょうよう)に月白く 静かに照れり吉田山



琵琶湖周航の歌

1.

われは湖(うみ)の子 さすらいの旅にしあれば しみじみと 昇る狭霧(さぎり)や さざなみの 志賀の都よ いざさらば

2.

松は緑に 砂白き 雄松が里の 乙女子は 赤い椿の 森陰に はかない恋に 泣くとかや 3. 油のまにまに 漂えば

波のまにまに 漂えば 赤い泊火(とまりび) 懐かしみ 行方定めぬ 波枕 今日は今津か 長浜か 4.

瑠璃の花園 珊瑚の宮 古い伝えの 竹生島 仏の御手に 抱かれて 眠れ乙女子 やすらけく

5.

矢の根は深く 埋(うず)もれて 夏草しげき 堀のあと 古城にひとり 佇めば 比良も伊吹も 夢のごと

6.

西国十番 長命寺 汚れの現世(うつしよ) 遠く去りて 黄金(こがね)の波に いざ漕がん 語れ我が友 熱き心









































